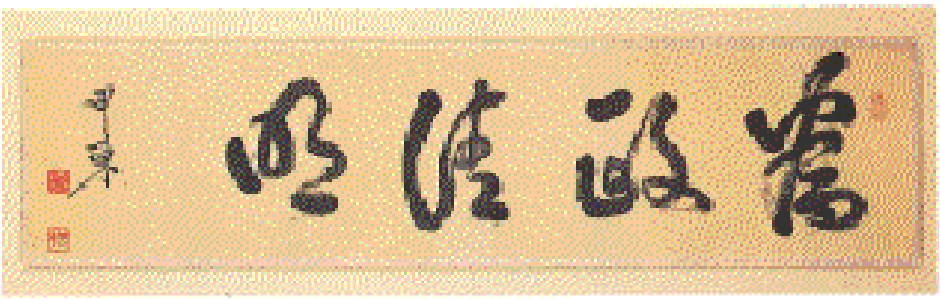
為政清明　一幅

【所　在　地】鹿児島市城山町４-36　鹿児島市立美術館
【種　　別】県指定有形文化財（書跡）
【指定年月日】昭和 42 年３月 31 日



鹿児島市立美術館にある「為政清明」の書は，参議兼内務卿として明治新政府の国政に参与し，その基礎を築いた大久保利通（甲東）の書いたものである。

この書の鋭い筆の調子には, 端正で気品のある利通の性格がよく表われているとされる。

「為政清明」とは国政に参画する者の，当時の心情を如実に表現したものである。政治するものは，自ら心も態度も清く明るくならなければならない。東京青山の墓前の神道の碑の一部には,「沈静にして剛毅，不屈の精神に富み，英明善断，外に殊勲を建て，内に偉功を奏し」また,「容貌，端重，厳として犯すべからず，しかして，人に接するに，至誠を以ってし，外剛にして内和」とある。

この書の体裁は，縦 49cm，横 165cm の金箔張り紙装，額仕立て黒漆椽，作品の寸法は，縦 31.8cm，横 132cm の大きさである。

利通は，不幸にして 49 歳の若さで凶刃に倒れ，生前は多忙のため，書に親しむ機会も少なかったにもかかわらず，こうした風格ある書をのこしていることは，彼の天性の才能を示すものであろう。